

令和8年度病害虫発生予察注意報第6号

令和8年8月24日
岐阜県

作物名 果樹（カキ、ナシ、リンゴ、ミカン等）

病害虫名 果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、
クサギカメムシ）

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 8月下旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- （1）各地域に設置した予察灯における7月第6半旬から8月第3半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシ（写真1）では、岐阜市則松4,968頭（平年1,259.9頭）、美濃加茂市山之上町1,307頭（平年265.6頭）（図1）、ツヤアオカメムシでは、岐阜市則松2,943頭（平年176.7頭）（図2）、クサギカメムシ（写真2）では、高山市国府町1,211頭（平年943.8頭）（図3）で、平年と比較し1.3～16.7倍となっている。
- （2）8月中旬までのヒノキ毬果口針鞘数（カメムシの吸汁痕）は、岐阜市秋沢で、山林からの離脱の目安とされる25本／果を超えた毬果が確認されている。
- （3）岐阜・西濃および中濃地域の果樹園では、すでに成虫の飛来が確認されており、今後山林から離脱するカメムシ類がさらに多くなる恐れがある。
- （4）名古屋地方気象台の1か月予報（8月20日発表）では、今後の気温は平年より高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件が続くため、園内への飛来と果実の吸汁による被害果の発生が懸念される。

5 防除上の注意事項

- （1）果樹カメムシ類の被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来を確認したら防除を実施する。なお、薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- （2）果樹カメムシ類の飛来は夜温および湿度が高く、風の弱い日に多くなるので注意する。
- （3）防除に当たっては、周辺環境、気象条件等に注意し、薬剤の飛散防止に努める。
- （4）農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
（<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム）

【参考資料】

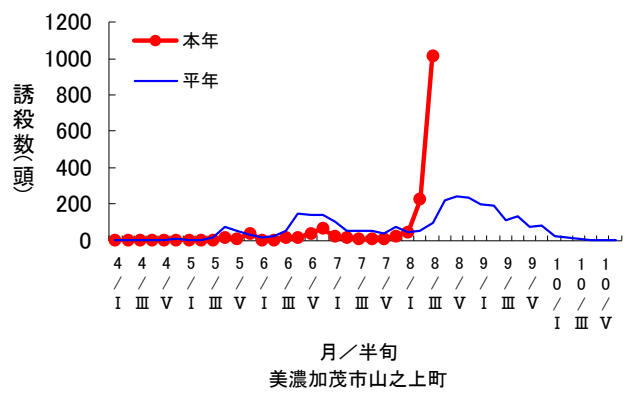
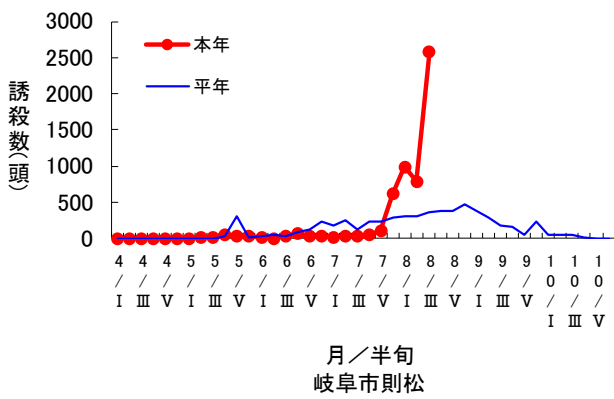


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数

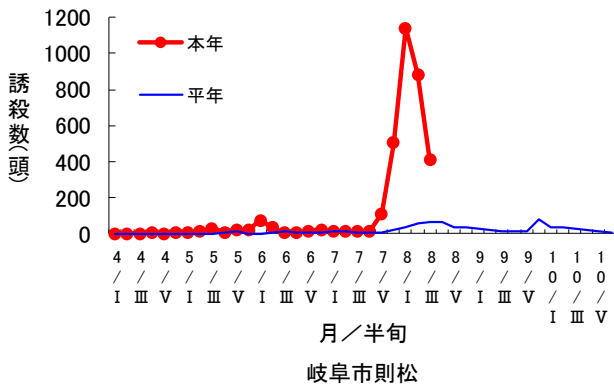


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数

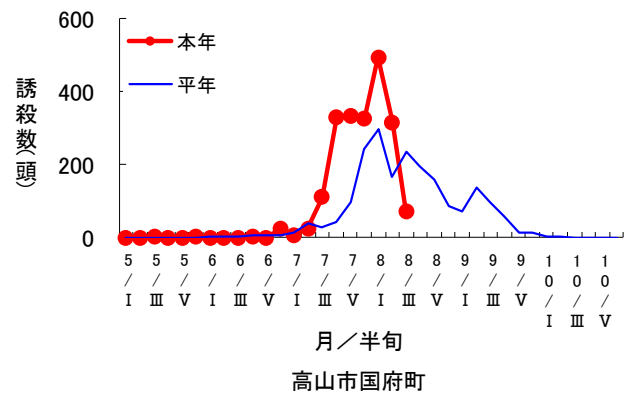


図3 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数



写真1 チャバネアオカメムシ



写真2 クサギカメムシ